特集 第6回

防災まつまえ・災害に備えて

風水害から身を守るために

問 総務課 ☎42−2275

今回の防災特集では、風水害についてお知らせします。
台風や豪雨が原因となって起こる風水害は、松前町で最も起こりやすい災害の一つです。
雨の降り方に注意し、危険が及ぶ前に早めに避難しましょう。

雨量の目安　洪水・浸水の原因となる雨の降り方に注意し、雨量の目安を知りましょう。

【ふつう】
1時間に5～10mm

水たまりができる程度の雨

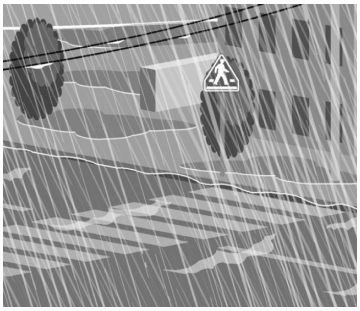
【やや強い雨】
1時間に10～20mm

ザーザーと降る雨
長く続くときは要注意

【強い雨】
1時間に20～30mm

土砂降りの雨
傘を差しても濡れる。

【激しい雨】
1時間に30～50mm

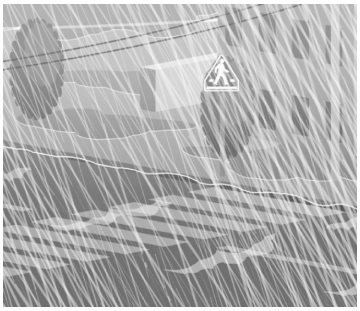


バケツをひっくり返したような雨
道路が川のようになる。

【非常に激しい雨】
1時間に50～80mm

滝のようにゴーゴーと降る雨
傘は全く役に立たない。

【猛烈な雨】
1時間に80mm以上



息苦しさや圧迫感を感じる雨
一面が白っぽくなる。

弱い雨でも降り続けると、河川の氾濫や堤防から水があふれるなどの洪水が起こる可能性が高まり、土砂災害の危険性も高まります。

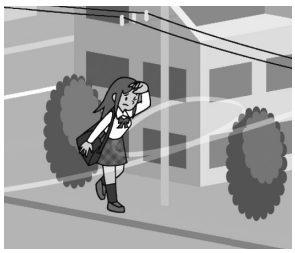
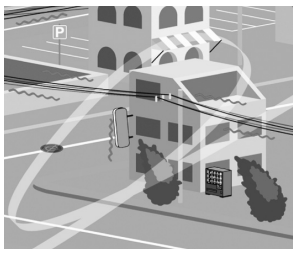
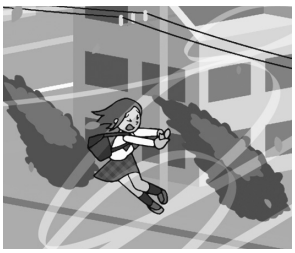
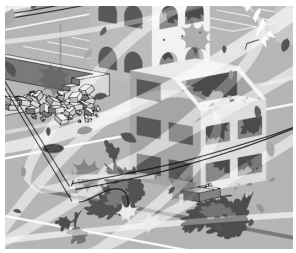
集中豪雨（＝ゲリラ豪雨）

地表付近の暖かい空気と上空の冷たい空気が混ざりあうと、大気は不安定になり、発達した積乱雲を発生させ、集中豪雨をもたらします。

◎どんなときに発生する？
- 南から暖かく湿った空気が流れ込む
- 冷たい空気が南下し、日本の上空に入る
- 地表付近の暖かい空気が上昇し対流を生む

風速の目安

樹木が倒れたり、家屋の倒壊を引き起こす風の吹き方に注意し、風速の目安を知りましょう。

【やや強い風】	【強風】	【非常に強い風】	【猛烈な風】
風速５～15（m/s） （おおよそ時速50km）	風速15～20（m/s） （おおよそ時速70km）	風速20～30（m/s） （おおよそ時速110km）	風速30（m/s）以上 （おおよそ時速140km）
			
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けなくなり転倒する人もでる。運転中は横風に流される感覚になる。	つかまっていないと立っていられなくなる。車は通常速度で運転するのが困難になる。	屋外での行動は極めて危険。走行中のトラックが横転する。

◆波浪（高波）…… 台風や発達した低気圧によって生じた、うねりや強い風による高波が海岸に打ち寄せられる現象

◆高潮 …… 台風や発達した低気圧に伴って海水面が異常に高くなる現象で、気圧が低いほど海面は高くなり、海から陸に向かって強風が吹くとさらに高くなります。

! 天気予報図の見方

テレビや新聞で見かける天気図の見方がわかると、自然現象と災害との関係について、より理解できるようになります。

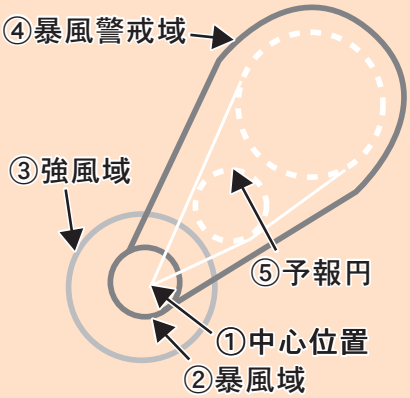
前線と台風による大雨パターン

北海道で雨の災害が多いパターンです。

北海道付近に停滞している前線に向かって台風から暖かく湿った空気が流れ込み、前線の活動が活発になるため大雨になります。

その後、台風本体による大雨が続き、災害が発生するおそれがあります。

台風の進路予想の見方



※TV等では、下記の（　）内に記載した色等が表示されます。

①中心位置
台風の中心位置

②暴風域（赤色丸）
平均風速25m以上

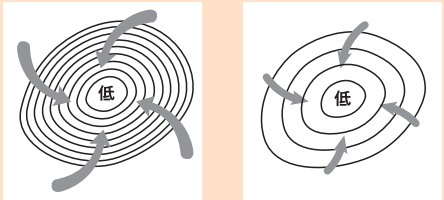
③強風域（黄色丸）
平均風速15m/秒以上

④暴風警戒域（赤く囲まれた範囲）
暴風域に入る可能性がある範囲

⑤予報円（白色丸）
この中に入る確率が70％と予想される範囲

等圧線と風の強さ

風が強い　風が弱い



水が高いところから流れるように空気も高気圧から低気圧に流れそれが風になります。

等圧線の間隔が狭いということは気圧差が大きいため、風が強くなります。